

埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network
埼玉グリーン購入ネットワークニュース
第10号 2013年3月

～環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める
首都圏初の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2013.3



松永功会長と松永大祐社長

CONTENTS

- トップインタビュー
株式会社松永建設…………… 1
- 小水力発電とメガワットソーラー（秋の見学会）…………… 2
- 環境経営おたすけセミナー…………… 3
用紙の買い選び方
- 会員紹介（株）神谷製作所…………… 4

現場単位で廃棄物の排出量を管理 株式会社松永建設



江田会長が環境への取り組みを聞く

江田会長：松永建設さんの企業理念に基づいた環境への取組についてお聞かせください。

松永社長：弊社は『感動を創造する建設会社』をテーマにしています。お客様に、期待されている以上のことを提案することにより、感動していただき、それがビジネスに結びつけられればと考えています。

そのような中、耐震診断や省エネ診断に基づいた建築やリフォーム、又ランニングコストの削減といった面で、弊社の環境問題への取組を通して、いかにお客様の経営メリットにつなげられる提案が出来るかが

大切であると思います。そのためのベースとして環境マネジメントシステムの認証やエコアップ宣言の取得に取り組みました。

江田会長：ISO14000の取得にあたってどのように取り組まれましたか。

松永社長：ISO9000の取得にはコンサルを入れましたが、ISO14000は独自に行いました。エコアップ宣言の時は、ISO14000がベースにありましたので比較的スムーズに取得できました。

認証の取得にあたっては、いかに現場単位で廃棄物を出さないようにするかという観点から、分別して廃棄物を管理することにしました。以前ですとコンテナの囲いのなかにボンと廃材を入れていたのですが、現場単位で毎月排出量の計測を行い、目標を立てて廃棄物管理を行いました。本社でもランニングコストの削減から排出量の削減を金額化し、年間目標を定めて推進しました。

江田会長：建築物の解体から出る建設廃材をなくすことはなかなか出来ないことですが、御社では建設廃材を再利用する骨材再生工場をお持ちですね。

松永社長：はい、おっしゃる通り建設廃材をゼロにすることは出来ませんが、再利用することで廃棄物を減らせます。再生骨材工場の稼働は、環境への配慮という観点からであり、廃材を分別破碎して砂利と砂を分けて土木の骨材として再生しています。

江田会長：御社の環境問題における取組みの成果についてお聞かせください。

松永社長：弊社の特徴として、130人の社員のうちメンテナンス部隊が25人います。彼らは、お客様の工務課や施設管理課に代わり、メンテナンスを行っています。

弊社の建築のルーツはここにあります。最初は土木専門だったため、いきなり新築建設が出来ず、そのためメンテナンスから取りかかりました。その結果お客様の工場の隅々まで分かるようになりました。お客様

が工場を増築する、第2工場を作るといった時、事業内容、生産特性や工場現場を理解している弊社に頼もうということになり、それが新築に結びつきました。メンテナンスから入っていったことが弊社の強みになっています。これからは環境の視点を入れ、耐震診断、省エネ診断を活用し、コストの低減による経営メリットをお客様に提案して行きたいと思っています。

省エネ診断を取り入れ、電気、給排水や空調を含めたメンテナンスによってランニングコストを下げるエコリフォームをお客様に提案させていただいています。**大関氏**：エコリフォームプロジェクトチームを1年半前に立ち上げました。部署に関係なく、自主的にエコ事業に関わりたいというメンバーが26名集まりました。月に2回ほどミーティングを行い、情報を共有して太陽光発電を中心にリフォームの営業、販売推進を全員で行っています。当初は、個人向けの太陽光発電を中心としていましたが、昨年7月から太陽光発電の全量買い取り制度がスタートしたこと、お客様も個人より法人が多いことから営業方針を修正し、大型の太陽光発電の販売に取り組みました。その結果、病院、工場施設また賃貸マンションで実績を積むことができ、このたび140kWという大きな太陽光発電の受注をいただくことが出来ました。

こういった自主的な取り組みを推進することによって、社員の意識も大きく変わったと思います。

江田会長：人材育成をどのように行っているかをお聞かせください。

松永社長：弊社は50周年を迎え、フューチャーサーチというテーマを設定し、10年後の松永建設をみんなで考えようということを行いました。10年後には経済やお客様はどのように変わっているのだろうか、松永建設はどうか、ということ社員が部署を超えたチームを作って年齢や性別に関係なく皆で議論して答えを出していく、そういうことを夏におこないました。その時、自分たち自身で考え、分け隔てなく議論することが大事だと感じました。

江田会長：すごいですね。社員個々にいかに火をつけることができるかが社長の役目だと思っておりますから、大変素晴らしいことだと思います。

松永社長：いかに個人の人生と会社の持続性を結びつけていくかが重要であり、自分の人生を考えたとき、会社と自分がどう関わるのか、考えさせる事が一番大事だと思います。

江田会長：今日は、本当に素晴らしいお話を伺いました。ありがとうございました。

小水力発電とメガワットソーラー 埼玉GPN秋の見学会

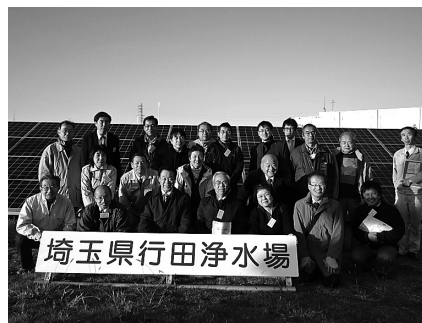
県内の自然エネルギー活用先進事例を見学するため、秋も深まった11月21日、見学会を開催しました。21名で神流川沿岸発電所の小水力発電設備と埼玉県行田浄水場のメガワットソーラーを見学しました。

最初に訪れた神流川沿岸発電所は、神流川頭首工から取水された農業用水が上里幹線の上流部にある調整池にいったん貯留され、パイプ



神流川沿岸発電所

ラインを経て調圧水槽まで流下、この調整池と調圧水槽までの高低差によるエネルギーを有効に利用することで発電を行っています。生み出された電気は、土地改良施設で使われ、余剰電力は電力会社に売電することで、維持管理費にあてる事が出来るそうです。発電する電力量は、年間522kWhで、一般家庭の140世帯の1年間分の消費電力に相当するとの事でした。



行田浄水場メガワットソーラー

続いて訪問した県有施設である行田浄水場は、浄水池上の芝生2.2haを利用し、太陽光発電システム1,200kW設置し

ています。技術提案デザインビルド方式により、わずか7カ月で完成し、2012年3月28日から稼働を始めています。パネルは南向きに傾斜25°で5,040枚設置してあります。年間発電量は1,372,594kWhを見込んでいたとのこと。発電した電力は所内で使用し、省エネルギーとCO₂削減に役立てているそうです。また、開業からわずかにも関わらず、15,000人の小学生を始め多くの見学者が訪れ、環境学習の拠点となりつつあるとのこと。施設の代表の方はメガワットソーラー設置のおかげで、思いがけない副次効果があったと喜んでおられました。

すぐに始められるグリーン購入実践講座

昨年に引き続き、今年度も1月16日(水)に「すぐに始められるグリーン購入実践講座」を開催しました。昨年、基礎講座を開催したところ好評であり、内部でもグリーン購入をよく理解すべきという声もあり、2年連続で講座を開催しました。グリーン購入ネットワーク(GPN)事務局次長の深津学治氏がまず始めに「グリーン購入の基礎と自社のビジネスへの活用」というテーマでグリーン購入の基本についてお話されました。講演の後には、「埼玉B級グルメ大会のグリーン化」をテーマにワークショップを行い、参加者には楽しくグリーン購入を学んでいただきました。



一人の百歩より百人の一步

グリーン購入を進めていく上で大切なことはマネジメントサイクル(PDCA)を回していくこと。何を達成するのか組織の中で共有化し、方針を内外に周知し協力体制を構築することです。当然トップの理解が必要です。

当日の講話をまとめてみると、以下のことが言えます。環境配慮商品が入手しやすい分野、環境情報が入手しやすい分野、コストがあまり上がらない分野など、取り組みやすいところから“Step by Step”で進めると良いでしょう。また、環境影響が大きく組織での購入量が多い分野、組織内でアピールしやすい分野、顧客や市民にアピールしやすい分野、自らの事業活動が負荷を与えていると考えられる分野などから始めていくことも良いでしょう。

環境ラベルや環境情報にもいろいろなものがあります。ライフサイクルを評価しているもの、特定部分だけを評価しているものなどがあります。繰り返し使える、長く使える、などの情報もあります。

環境にやさしい商品を買えばグリーン購入かと言えばそうとは言い切れません。まず、買う前に本当に必要かどうか考えることが大切です。必要なのか、修理やリフォームですまないのか、共同利用やレンタルでは出来ないのか、購入量がそれで良いのか、考えることが大切です。

環境にやさしい企業から商品やサービスを優先して購入することも大切です。環境マネジメントシステム



B級グルメ大会こんな企画で

最後に、「グリーン購入は“円(¥)の投票”一人の百歩より百人の一步」

是非、取り組んでみましょう。

を導入している企業、環境情報を公開している企業、グリーン購入を推進している企業などから購入すると良いでしょう。

用紙の賢い選び方

グリーン購入に取り組みやすい商品分野の一つと言われているのが用紙(コピー用紙等)です。用紙の原材料を中心に、環境のことを考えた用紙の選び方を整理しましょう。

環境のことを考えた用紙を選ぶポイント

- 古紙パルプを多く使用していること
 - バージンパルプを使用する場合
 - ・原料産出地(木材等伐採地)の法律・規則を守って生産されたもの
 - ・再・未利用材や持続可能な森林等から調達されたもの
- ※GPN「印刷・情報用紙」購入ガイドラインから抜粋

○古紙パルプが多く使用されている用紙を選ぼう

私たちは家庭やオフィス、工場の製造工程でも使用済みの用紙を分別回収に出し、古紙のリサイクルに取り組んでいます。それは、古紙パルプを使うことにより、資源を有効利用すると共



エコマーク

に、森林資源への過度な需要圧力を緩和することにつながるからです。古紙パルプを多く使用している用紙の目印となるのがエコマークやグリーン購入法の総合評価値です。

○合法性や持続可能性が確認された用紙を選ぼう

世界の森林から“いただく”

バージンパルプについては、現地の法律が遵守され、持続



FSC



PEFC

可能な森林経営に配慮された木材から調達されたものである必要があります。FSCやPEFC等の森林認証紙の

他にも、合法性や持続可能性について第三者による監査を受けた用紙等もあります。

○地元の間伐材や非木材等を利用した用紙を選ぼう

近場の間伐材や竹や葦、バガス等の未利用材を活用した用紙を選ぶことも、森林や竹林の整備、資源の有効利用につながります。

○銘柄別の環境情報は「エコ商品ねっと」

用紙の銘柄別環境情報は「エコ商品ねっと」で閲覧・検索できます。「エコ商品ねっと」は年4回(3、6、9、12月末)環境情報を更新しています。

エコ商品ねっと <http://www.gpn.jp/econet/>

「仕切り板」のリサイクル
(株)神谷製作所

初めまして。(株)神谷製作所です。

60年前に東京世田谷区にて起業し、埼玉県新座市に移転して28年になります。当初は木工所として測量器や気象計測器の収納箱を製造販売しておりました。50年前から地質調査業で使用する標本箱の製造を手掛けるようになり、現在もコア箱と併せて主力製品となっています。地質調査で使用する標本箱やコア箱は基本使い捨てです。

弊社が昨年GPN様へ参加させて戴ききっかけになったのは、使い捨て部分のリサイクル化への取り組みを考えたからです。社会的な取り組みとしてどのような組織・対策・具体例があるのかを知りたいと思いました。

現在実行している取り組みは、「仕切り板」のリサイクルです。これは例えば10cm×10cm×厚10mm位の木製板ですが、使用しないで焼却される場合があります。お客様には不要な仕切り板を一旦集めて戴き、弊社からお送りするダンボールと着払い伝票にてご返送をお願いし、リサイクルさせて戴きます。

いま一つは、標本箱内側の発砲スチロール使用部分を再生ダンボールに変えるものです。試作を繰り返し、今春には販売に漕ぎ着けそうです。

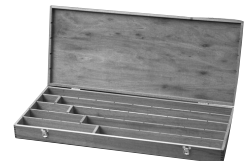
文責 営業部 河津裕幸



標本箱10本入れ



標本箱10本入れ
内側再生ダンボール



コア箱標準品

埼玉GPN会員一覧

順不同

りそな総合研究所(株)、(株)ぶぎん地域経済研究所、(株)ハイディ日高、(株)テレビ埼玉ミュージック、大宮アルディージャ、浦和レッドダイヤモンズ、埼玉日産自動車(株)、柏木建設(株)、武州ガス(株)、(株)ヤオコー、(有)タカザワ企画、(有)パル、(株)関東パイプ技研、(株)小山本家酒造、埼玉トヨペット(株)、ポラス(株)、リコージャパン(株)関東営業本部埼玉支社、望月印刷(株)、(株)イーシティ埼玉、新日本有限責任監査法人さいたま事務所、(株)大和ライト工業、(株)ピクルスコーポレーション、(株)FM NACK 5、(株)デサン、(株)タカヤマ、(株)アクセル、(株)ビージーサービス、武州産業(株)、(株)埼玉りそな銀行、(株)ビルテクノマイニチ、(株)イー・シー・エス、(株)松永建設、(医)誠昇会北本共済病院、(株)マッハ、税理士法人レッドサポート、(株)武蔵野銀行、(株)アルク設計事務所、埼玉縣信用金庫、(株)八洲電業社、(株)エンライト、(株)ワーム、(株)アライ、(株)ジャスト、東京ガス(株)埼玉支社、(株)ユーパーツ、溝口洋紙(株)、(株)エコ環境システム、(株)松柳園、(株)甲商、(株)ビルヒット、(株)東京化成製作所、アピカ(株)、ケミテック シー・エス・エス(株)、武正(株)、北海製罐(株)、コクヨマーケティング(株)埼玉支店、富士ゼロックス埼玉(株)、国際チャート(株)、計測サービス(株)、三国コカ・コーラボトリング(株)、(株)ベルエール、(株)ハイクレー、フォーレスト(株)、サンケイ鋼器(株)、大成ロテック(株)、(株)ジャパンアート、(株)アートドットコム、(株)シール堂印刷埼玉事業所、(株)埼玉ディエスジャパン、(社福)埼玉福祉会、毎日興業(株)、(株)与野フードセンター、マルキュー(株)、(株)メガネットワーク、(株)埼玉新聞社、(株)国太楼、(株)エヌ・ティ・ティ・クオリス、(株)太陽商工、(株)神谷製作所、戸田市、埼玉県、入間市、さいたま市、日高市、川越市、川口市、生活協同組合さいたまコープ、(特非)EEハーモニー、埼玉県商工会連合会、(公財)さいたま市産業創造財団、(財)埼玉県産業振興公社、埼玉中小企業家同友会、さいたま商工会議所、埼玉県中小企業団体中央会、(公財)埼玉県公園緑地協会

■ 入会案内

団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

■ 発行：埼玉グリーン購入ネットワーク

〒337-0053さいたま市見沼区大和田町2-1322-2大和田NPOプラザ内
TEL.048-749-1217 / FAX.048-749-1218
E-mail saitamagpn@yahoo.co.jp
Home Page <http://www.saitamagpn.jp/>